

生分解性マルチ(コーンマルチII・Bio-PAL)の効果確認試験

JAとまこまい広域

滝 敦人



慣行区(エドビ生分解)、試験区(Bio-PAL)



試験区(コーンマルチII)



慣行区(エドビ生分解)



試験区(Bio-PAL)



試験区(コーンマルチII)

試験目的

生分解性マルチの効果確認

試験作物 及び品種

南瓜(味平、味王)

試験資材 及び数量(規格)

Bio-PAL(0.012mm×95cm×400m) 透明 1本
コーンマルチII(0.015mm×95cm×400m) 透明 1本

慣行資材

エドビ生分解

栽培方法

定植日
慣行区:6月8日
試験区:6月8日

収穫日
慣行区:9月上旬
試験区:9月上旬

マルチ展張 6/5
【栽植密度】
畝幅:3m
株間:80cm

資材使用期間

5月下旬~9月下旬

試験区面積

8反

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

従来品の厚さ0.018mm厚に比べ、試験品は0.012mm厚、0.015mm厚と薄いため定植時にローラーで穴を開ける際に少し裂け目が入ることがあった。

許容範囲内であるが、風によって裂け目が広がってしまうと困る。

厚みを薄くすることで、長尺巻にすることが出来るためマルチ交換回数が減り、手間が省けることが期待できる。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育状況は慣行品と大差なかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:コスト削減効果や、長尺巻の使用による作業省力化。

【問題点】:今回は問題なく使用出来たが、厚みが薄い分の強度低下。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

厚みが薄い分の強度低下は感じるが、使用出来るレベルである。

崩壊性についても慣行品よりは収穫時の分解が早く進んでいた。

(5)保温効果について

温度測定していないが、生育状況が大差なかったため、慣行品と同等であったと考える。

(6)雑草・病害虫の発生について

慣行品と変わらない。

モニター感想

厚みが薄い分、ローラーで穴を開ける際に、少し裂け目が入ることがあったが、それ以外は問題なく使用できた。

従来の400m巻よりも長尺巻を作ることでマルチ交換回数が減ると手間が省けて良い。

JA担当者の感想(生産資材課 溝口課長)

当農協は、南瓜の作付面積が多くサンブラックマルチが製造中止となった今は、ほぼ全量、生分解性マルチを使用している。

生分解性マルチは価格が高いため、価格抑制のためにも厚みの薄いマルチの需要は高まると思う。

各メーカーが生分解性マルチを出しており種類が多いので、集約して取りまとめることでコストメリットを出していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリンテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他